



# あおもり 町連だより

## 第214号

令和元年10月  
(2019年)

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584  
FAX 017(734)2587

## 交通事故・犯罪を撲滅しよう

### 22の地区連合町会が大会・パレード

安全・安心な住みよい町を目指し、22の地区連合町会が6月28日から10月14日までに交通安全・防犯大会を開き、市内をパレードするなどして、交通事故・犯罪の撲滅を訴えました。

□南部第六区連合町会（加藤恒雄会長）と南部第八区連合町会（八戸弘会長）は6月28日（金）、奥野中央公園で「防犯・交通事故・少年非行防止合同パレード総決起大会」を開き、犯罪と事故のない安全・安心なまちづくりを誓いました。

午前10時から始まった大会には、両地区21町会、団体から350人が参加、事故犠牲者を追悼して黙祷した後、大会長の竹内四郎青森警察署みなみ交番連絡協議会長、来賓の樋口薫みなみ交番所長があいさつ、防犯活動等への日ごろの協力に対する感謝やパレードをするにあたっての注意事項などを話し、若宮町会の長内律子女性部長が「犯罪と事故のない、明るく住みよい安全・安心なまちづくりのため①自転車の盗難、車上ねらい事件等、街頭犯罪抑止②交通死亡事故の抑止③少年非行の防止④広報、啓発活動の推進-を中心に活動することを決意表明し、運動を展開することを約束します」と大会宣言しました。

この後、参加者は交通事故防止のたすきをかけ、のぼり旗やプラカードを手に、青森山田中学



交通安全・防犯を訴えるパレード(南部第六区・第八区連合町会)

高等学校吹奏楽部員65人が演奏するマーチにあわせて、奥野中央公園からサンワドー、観光通り、サンロード青森、奥野中央公園のコースをパレードし、防犯・交通事故防止を訴えました。

□南部第一区連合町会（高坂次男会長）は6月29日（土）、昼の部（2～4時）、夜の部（7～8時30分）に分けて行なったねぶた運行を通し、交通安全を訴えました。高田地区の「竹ねぶた」=写真=の運行には120人が参加、同地区6町会を回



#### 紙面紹介

- 2面 地区連合町会交通安全・防犯大会  
新任町会長研修会
- 3面 30年度除排雪事業報告会
- 4面 第1回市町連会長杯ゴルフ大会  
石江江渡下町会ねぶた運行

りました。

同地区のねぶた運行は、少子化の影響でしばらく途絶えましたが、一昨年、再開しました。竹で造型、明かりにろうそくを灯す「竹ねぶた」は、伝統を重んじる地区の住民に共感したねぶた師の竹浪比呂央さんが制作しました。

□東部第三区連合町会（鶴賀晃会長）は、夏の交通安全県民運動初日の7月21日（日）、国道4号線から合浦公園へ曲がる交差点付近で、交通安全

「のぼり旗ロード作戦」を行ないました＝写真。

午前7時半から始めた作戦には12町会から53人が参加。のぼり旗を持ちドライバーに安全運転を訴え、歩行者、自転車通行者にチラシ、反射材を配布しました。



## 町会管理の書類の保存 補助金は10年

### 新任町会長と意見交換

市町連は7月23日（火）、ラ・プラス青い森で、昨年5月以降に町会長に就任した町会長を対象に研修会を開き、市町連の組織、市の町会への助成制度などについて説明、意見交換をしました。



新任町会長19人が出席した研修会

研修会には町会長19人が出席、市町連の加川幸男会長のあいさつの後、福井正樹事務局長が、市町連の組織や会費納入、市との委託契約に基づく文書等の回覧、世帯数と組（班）数の報告など市町連が町会長にお願いしていること、市町連の会費と町会に対する助成、町会長の仕事内容などを説明しました。

意見交換では、出席者から①町会で管理する書類の保存期限は②過去に表彰を受けた町会員の記録が町会にない場合、事務局に問い合わせれば分かるか③町会女性部の活動が女性問題に限られているように感じられる。活動を見直して、町会の役割、課題も研修できる機会を考えてほしい④町会長になるには、女性はハンデを負っているが、女性の町会長が増えてほしい⑤町会連合会の会費の納入方法はーと質問、要望があり、福井事務局長が①町会で年限を定めておくのが望ましい。普通の文書は5年、契約書類は10年、町会が業者

と独自に契約した場合の契約書は永久保存が望ましい。市では、市の補助金に関するものは10年にしてもらっている②事務局で保存している③女性の町会長が増えてきている。町会長に関しては案内も男女同じ扱いになっている。女性部会は部会で協議、活動を行なっている④市町連から町会長を女性にしてほしいとは言えないが、活動の見直しなど協議してみたい⑤事務局から郵便振替の用紙を送る。この用紙で振り込めば、振り込み手数料を事務局が負担する。銀行振り込みの場合は、手数料は振込人負担になるーと説明しました。

続いて、市の市民協働推進課の嘉瀬慎一主幹、小野寺一歴主事、徳田大介主事が、市が町会に対して行なっている補助制度について、各補助金の対象になる事業例、補助率、限度額、申請から交付までの事務の流れなどを説明しました。

出席者からは①地域コミュニティー活性化事業補助金の対象になる除雪活動とは、具体的にはどのような活動か。スクラム排雪助成制度はまだあるか③県営住宅の場合、市の補助は④クリーンボックスを複数の町会が共同で使用する場合、コミュニティ補助金を共同で申請することは可能か⑤神社、寺院、市の保有地の道路の路肩の草刈りも補助の対象になるかーと質問があり、市から①クリーンボックスの周辺を、除雪機を借りて除雪した場合、除雪機の借料、ガソリン代、スコップ代は対象になる。スクラム排雪制度はまだある。除排雪に関しては秋に説明会を開く②施設の整備には補助できないが、夏祭りなど住民のイベント、草刈り、清掃活動は対象③実際に複数の町会が共同で使用している場合は、直接相談してほしい。出来る方向で考える⑤対象になる。町会の環境美化に関しての補助は、草刈りする場所を特定していないーと説明しました。

# 「ゆきレポ」の効果大

## 30年度除排雪事業報告会

市の除排雪事業報告会が7月12日（金）、沖館市民センターで開かれ、市町連から加川幸男会長はじめ役員20人が出席、昨年度の除排雪実施状況に関し市道路維持課雪対策室の小田一彦室長が報告した後、除排雪に係わる課題などについて意見交換しました。



30年度の除排雪実施状況を報告する市の担当者

### スマホによる相談対象を拡大

実施状況など概要は次の通りです。

累計降雪量は531cm（前年度659cm）で最近5年間では2番目に少なかった。除排雪経費は35億9千890万円（前年度40億3千390万円）だった。スマートフォンなどによる専用のアプリを利用した雪に関する相談システム「ゆきレポあおもり」を試行したが、投稿件数は222件（うち時間外107件）だった。これは①時間に制約されない②位置情報、現場写真付きのため、現場、状況を即時に確認できる③誰もが内容を閲覧でき、市民と市が情報を共有できる—ことから、効果が大きかった。そのため、冬期間だけだった「ゆきレポあおもり」の相談対象を道路、公園、水路にも拡大し、新たに「まちレポあおもり」として通年運用することにした。市民雪寄せ場事業では、雪寄せ場として借り受けた土地で事故が起きた場合、町会長の責任になるので、空き地の所有者と契約を結ばないところもあるという町会長の声を受けて、雪寄せ場に立てる看板に、利用上の注意事項として「市及び町会は、雪寄せ場での事故やトラブルに責任を負わない」を書き加えた。地域コミュニティ除排雪制度は14団体が利用した。

市が進めている流・融雪溝や歩道融雪の整備については、現在佃地区で流・融雪溝を整備中、昨

年度から篠田地区の調査に着手した。

意見交換では、市町連側から①雪処理に八甲田地区の地熱を活用する構想、機械力以外の雪処理計画、建設中の市役所新庁舎の融雪方法は②下水道を利用する雪処理の進捗状況は。冬期間水が流れない下水管は雪処理に利用できない。水を流してもらえれば利用できる③排雪は夜間に行なわれるが、夜間は騒音で眠れないという声がある。昼にできないか④汚水管を雪処理に活用できないものか⑤流雪溝を利用して30年経過、グレーチング（格子状の鉄製ふた）が劣化してきた。改良をしているが追いつかない。今後も改良を続けてほしい⑥地域コミュニティ制度を利用、一カ所に雪を集めて、ダンプトラックで排雪する場合、経費は町会負担になるのか—と質問・要望をしました。

### 多様な雪処理、国へ支援を要望

市側は①地熱の活用については、民間業者が八甲田での地熱発電を考えて、本年度から熱源を見つけるためボーリング調査をする予定。市は、専門家を招いて地熱の活用のシンポジウム開催、PR、ボーリング調査が温泉事業に影響がないよう、業者と温泉事業者との連絡調整などを行っている。機械力に頼らない融雪方法としては空気利用（新青森駅・空気を機械で取り込んでヒートポンプで循環させる）、地中熱利用（ホテル青森付近・県庁付近）など取り入れているが、これらは国の支援で行なっている。今後も支援を国へ要望するとともに、機械力に頼らない新技術の開発も要望していきたい。いまは機械力が一番安くつく。新庁舎の人が通る部分は地中熱融雪、一部電気融雪、駐車場は機械除雪の計画である②管の直径1m以上の合流式下水道（汚水管と雨水管が一緒の下水道）による雪処理は、条件に合う地区は事業が終わっている。冬期間水が流れない下水管に水を流すためには水源がないと難しい③昼は人の往来があり、人身事故の危険が心配される、交通量が多い、ダンプトラックが雪捨て場と往復するのに時間がかかるなどから夜間に実施している。雪盛りの場合は相談してほしい④汚水管は家庭の汚水を流しているの、雪処理の活用には適さない⑤継続していきたい⑥コミュニティ制度利用で業者、市と協議する際ルールを決めるようにしてほしい—と回答しました。

## 第1回市町連会長杯ゴルフ大会

# 町会員138人が熱戦

青森市町会連合会主催の「第1回青森市町会連合会会長杯あおり市民オープンゴルフ」が7月18日(木)、青森カントリー倶楽部で開かれました=写真。



大会には各町会から男女138人が出場し、青森の下、午前7時54分スタート、千葉賢一郎さんがグロス78で熱戦を制しました。

大会は、町会員の健康づくりと幅広い年齢層の市民の町会活動への参加促進を目的に、青森市内に居住する町会員を対象として、参加料1万円で、今年度初めて実施、青森市、青森商工会議所、東奥日報社、RAB青森放送、ATV青森テレビ、ABA青森朝日放送、青森ケーブルテレビ、青森県ゴルフ連盟が後援しました。

表彰式は、午後7時から青森国際ホテルで行なわれ、各入賞者へトロフィー・賞品が贈られました。



優勝した千葉さん(左)と加川幸男市町連会長

入賞者は次の通りです(敬称略)。

		N	G	H
優勝	千葉賢一郎	69.6	(78, 8.4)	
準優勝	田坂 康信	71.6	(80, 8.4)	
3位	山田 誠	71.6	(86, 14.4)	
4位	福岡 国衛	71.8	(91, 19.2)	
5位	三上 光春	72.6	(81, 8.4)	

市長賞(ベストグロス) 千葉賢一郎

N=ネットスコア、G=グロススコア、

H=ハンディキャップ

## ねぶたが地域を回る

### 石江江渡下町会が運行



石江江渡下町会は7月27日(土)、町会のねぶたを運行、近隣の町会の児童生徒、保護者、住民も大勢参加して、地域を回りました=写真。

同町会は例年7月下旬に、ねぶたを運行しており今年が11回目。運行に当たっては、石江高間、石神、みよしのの各町会も協力しました。

午後5時15分、ねぶた「関羽」は、新城小学校ねぶたとともに、新城小学校そばから運行開始、にぎやかな囃子に合わせて、「ラッセラー、ラッセラー」の掛け声も勇ましく、それぞれの町会をめぐりました。

## 哀 悼 録

大湯町会長 柴田 昇 殿  
(令和元年8月11日ご逝去)  
慎んで哀悼の意を表します。

## 編 集 後 記

この夏、石江江渡下町会のねぶた運行について回り、地域にこんなにも多くの子供たちがいることにびっくりした。この地域に移り住んで3年余りになるが、前に住んでいた地域とは大違いだ。地元への若者の定着率が青森市で64.7%(2000年の10-14歳人口と2015年の25-29歳人口を比較)という。青森市の人口は、15年後の2035年には、現在の20%減になると推定されているが、若者に限れば、既に30%以上が流出しているのだ。やがて、地域の子供たちも出て行くのだろうか。子供たちが、地元に残って、人口減を食い止め、市を牽引してほしいと願わずにいられない。(千)